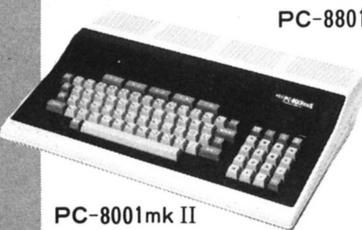


1983

# MSXやらマークII 世界に広げ



PC-8801mk II



PC-8001mk II

同じく名機PC-8001もmk IIとして新しく生まれかわった。PC-8001と完全に互換性を保ちながら、グラフィック機能やインターフェイスを充実している。

ただ、互換性の重視は基本設計の変更を困難にした。あまり新しい感じがしないところが惜しい。



PC-100

さて、この年NECのPCシリーズがまだあった。16ビットマシンPC-100。この年のNECは大豊作だったわけだね。これでPCシリーズはPC-100からPC-6001mk IIまで(ハンドヘルドはのぞいて)大っきーなシリーズとなつたのだ。

この年に出たPCの2代目たちのうち最大の物はなんといってもPC-8801mk IIだろう。機能の面では基本的に何も変わらなかったが、実質的に値段が下がったことがうれしい。従来の8801と同じくらいの価格でフロッピー1基付きが買えちゃうのだ。従来のPC-8801ユーザーよ泣くな。キミの蓄積はけしてムダにならないぞ。



PC-6001mk II

8001mk IIに比べてPC-6001mk IIのはうがわりと大きく変わった。キーボードはちゃんとしたり、音声合成LSIでしゃべる、なんて新しいアイデアももり込まれた。しかも旧機との互換性もバッチリ。もっとも例の処理速度が早くなつたわけではないけれど。



PV-2000

パソコンが各種充実してくると同時に、いろいろ変わった機械も出てくる。たとえばカシオのPV-2000。「樂がき」の名のとおり、ディスプレイに絵を描くモードを持つ機械なのだが、ちゃんとASICも走るのだ。

なななんてたくさんあるんだろう、とこのページを見ておどろいてはいけない。これでもおさめきれなかつたたくさんのマシンが83年には出ているのだ。

NECのPCシリーズはすっかり2代目になったし、MSXも続々と開花を始めた。マイクロフロッピー内蔵のマシンも出てきたし、ホビーマシンもふえてきた。

そんなわけで83年に出た機械は半分くらいしかのせられない。なななんて多いんだ！

このページで、それから他のページでも、スペースの関係でのせられなかつたマシンたち、ごめん！

この年、NECのPCシリーズ充実はマークIIだけじゃなかつた。「しゃべるパソコン」からさらに「歌うパソコン」まで出しちゃつたのだ。しかも3.5インチマイクロフロッピーまで内蔵して。

このPC-6601の値段は14万5000円。ディスクを内蔵して、しかも安いというパソコンなのだ。



PC-6601

もうひとつ、SC-3000。ゲームのメーカーであるセガの製品だし、BASICも別にカートリッジが必要なのだが、けっこうちゃんとしたハードを持っている。しかも2万9800円。PV-2000、M5Jr.とあわせてニッキュッパー(298)と呼ばれ、パソコンの一番安い価格帯を形成したのだ。



SMC-777

マイクロフロッピー内蔵のマシンはNECだけじゃない。ソニーのSMC-777。値段は14万8000円で、しかもソニーファイラーというDOSも持つ、とハード的にはPC-6601に分のいい勝負をしたと思うのだが、大好評をもってむかえられなかつたのはどういうわけなんだろう。



RX-78



SC-3000

ゲームマシンと言えばバンダイのRX-78もこの年。BASICはカートリッジ式だが、けっこうよいハードを持っていて、やっぱりオモチャではない。オモチャメーカーもパソコンを出すようになったのだなー。